

あす知立でチャリティーコンサート

慈善の歌と演奏 ウクライナに

ロシアの軍事侵攻を受けたウクライナの子どもたちを支援しようと、県内の音楽家とピアニストが八日午後二時から、知立市内でチャリティーコンサートを開く。入場無料で、寄付を募る。出演者は「平和を願う心を歌と演奏に乗せたい」と準備を進める。(神谷慶)

愛知教育大(刈谷市)で音楽と音楽教育を指導する林剛一教授(左)とバリトンが中心になり企画。一九九五年からのローマ留学時に師事した声楽家ジュゼッペ・タッデイさん(故人)の親族の女性がウクライナ人で、今も交流が続いており「ひとことと思えず、自分に何かできることはないかと考えた」という。

同僚や教え子らに出演を依頼したところ、音楽家五人、伴奏を務めるピアニスト三人が快諾した。ソプラノで愛教大准教授の金原聡子さん(右)は「同時代を生きているとは思えない境遇の子たちの救いに少しでもなりたい」、ピアニストで愛教大助教の田舎片麻未さん(左)は「心を込め演奏することが、自分のできる最大のことだと思った」と参加の理由を語る。

出演は無報酬。会場の知立リリオ・コンサートホール

愛教大教授ら企画「少しでも子どもたちに救いを」

(右から)練習する林さん、田舎片さん、金原さん＝刈谷市の愛知教育大で本番に向けて



も、ホールやピアノなどの利用料を無償にし、ピアノの調律も業者が無償で応じることになった。

二部構成で、一部は山田耕筰作曲の「からたちの花」「母の声」、リヒャルト・シュトラウスの「星」といった日欧の歌曲を披露。二部はモーツァルトの「フィガロの結婚」やドニゼッティの「愛の妙薬」などのオペラからアリア(独唱)を中心に届ける。

林さんは「各出演者の得意な曲が中心となり、純粹に音楽を楽しんでほしい。コンサートを契機に、県内の音楽家たちによる支援の輪が一層広がってほしい」と話した。

当日は定員二百八十四人で先着順。義援金箱を置き、集まった善意は、日本ユニセフ協会を通じ全額寄付する。